

全日本カッター競技大会

日時 42年5月14日 09.00~16.00
場所 呉市・海上保安大学校 沖
主催 全日本カッター連盟
後援 NHK広島中央放送局
デイリースポーツ新聞社

11



第11回 全日本カッター競技大会

主 催 全日本カッター連盟

主 管 海上保安大学校

後 援 NHK広島中央放送局

デイリースポーツ新聞社

協 賛 呉 市

海 事 広 報 協 会

海 上 保 安 協 会

日 時 昭和42年5月14日（日曜日）

午前9時から 午後4時まで

会 場 呉 市 海上保安大学校

第11回 全日本カッター大会を迎えて

海上保安大学校長 奥 村 文 吾

薫風の好季節に、全国の大学から参会した200余名の潑刺とした学生諸君をここ瀬戸の一角に迎えて、第11回全日本カッター競技大会を行なうことになりました。主管校として誠に光栄なことであります。

参加された各大学は、制度や目的に相違のあることは免れませんが、共通していることは、海洋を雄飛の場と定め、海を愛し自然を友とする若人たちを育てていることです。

毎年新緑の候を選んで相つどい、おのおの母校の名誉と伝統を掲げて、日頃将来への情熱を秘めながら鍛錬を重ねた技倆を競うことは、海に志を寄せた若人の軒昂たる意気を世に問うばかりではなく、たずさえて遙かな水平線に立ち向かおうとする僚友と固い絆を結ぶことでもあります。ともに磨きあい励ましあう機会をもつことは、ただ諸君自身のためばかりではなく、平和を愛し、海とともに発展しようとしている同胞のためにも喜んでよいことではないかと信じます。

5月の海に映える麗女島を背景にダイナミックな祭典が始まろうとしています。選手諸君の健闘を祈ります。

この地で大会を催すにあたり、ご協力を賜りました各大学ならびに関係各位の温いご友情に深く感謝いたします。

大会役員

会長	海上保安大学校 校長	奥 村 文 吾
副会長	海上保安大学校 教 頭	松 本 満 次
審判長	海上保安大学校 訓練部長	東 内 文 男
役 員	海 技 大 学 校	明 渡 範 次
	鹿 児 島 大 学	肥 後 伸 夫
	神 戸 商 船 大 学	西 原 義 久
	水 産 大 学 校	橋 本 市 雄
	東 京 商 船 大 学	中 島 保 司
	東 京 水 産 大 学	宮 崎 芳 夫
	長 崎 大 学	柴 田 恵 司
	日 本 大 学	添 田 秀 男
	防 衛 大 学 校	寺 島 広 康
	三 重 県 立 大 学	細 川 鉄 雄
	海上保安大学校	八 重 樫 勉

大会委員

委 員 長	兄 林 秀 雄	通	信 米 倉 彰 弘
庶務會計	高 坂 一 憲	放	送 船 木 重 雄
会 場	村 上 彰	警	戒 清 水 日 出 吉
接 待	植 田 良 美	審	判 中 利 光 男
配 艇	村 上 克 久	記	録 上 田 克 己
	横 山 鉄 男	救	護 岡 洋 司
競 技 場	川 村 昇	宿	泊 春 原 公 人
進 行	長 井 孝 一		

出 漕 ク ル ー

海 技 大 学 校

(註) ◎キャプテン ○マネージャー

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	明 渡 範 次	本航・2	165	61	富 山 商	船(新潟)
艇指揮長	小 林 達 忠	本航・2	170	62	明 古 水	石(兵庫)
1	伊 高 橋 一	甲 二 航	165	63	宮 古 水	産(宮城)
2	河 村 敏 彦	甲 二 航	171	62	尾 道	東(広島)
3	西 田 克 稔	本航・1	168	64	浜 田 水	産(島根)
4	犬 飼 野 満	甲 二 航	168	63	谷 水 水	産(京都)
5	◎ 佐 南 山 中	本航・2	165	66	三 房 島	産(千葉)
6	田 藤 高 守	本航・1	165	68	安 大 児	産(岡山)
7	加 藤 吉 寛	甲 二 航	168	71	大 手 沼	島(香川)
8	佐 藤 上 正	甲 二 機	173	73	大 仙 水	気(宮城)
9	井 内 玉 城	甲 二 機	169	72	唐 島 商	津(佐賀)
10	宮 池 文 丈	本航・1	173	68	廣 島 商	船(大阪)
11	和 田 敏 夫	本航・2	165	68	廣 島 商	船(大阪)
12	石 名 坂 茂	本航・2	170	65	大 鶴	船(宮崎)
補		本航・2	160	57		南(山形)
〃		本航・2	174	68		

鹿 児 島 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	肥 後 仲 夫	G・3	174	62	宇 部 高	校(山口)
艇指揮長	川 島 渡 和	S・3	163	55	武 雄 田	高(佐賀)
1	大 田 中 上	G・3	164	60	加 世 都	高(鹿児島)
2	村 田 武 己	G・3	163	57	加 治 木	高(福岡)
3	千 田 正 明	S・3	168	60	加 世 木	高(鹿児島)
4	中 間 正 治	G・2	166	61	加 世 木	高(鹿児島)
5	佐 多 逸 朗	G・3	172	74	熊 商 大	高(熊本)
6	池 添 俊 一	G・3	172	72	出 大 水	高(鹿児島)
7	竹 内 誠 一	G・3	174	66	戸 畑 高	高(福岡)
8	中 山 政 隆	G・3	177	72	熊 本 ケ	高(熊本)
9	小 林 俊 彦	G・2	167	60	筑 紫 岡	高(福岡)
10	江 原 栄 臣	G・3	168	58	筑 紫 岡	高(福岡)
11	吉 本 幸 臣	G・3	165	59	壱 岐 館	高(山口)
12	黒 瀬 尚 義	G・3	165	60	修 岐 館	高(長崎)
補	中 西 宗 範	G・2	168	65	生 岐 館	高(福岡)
〃	伊 賀 信 義	G・2	162	63	大 嶺	高(山口)

出 漕 ク ル ー

神 戸 商 船 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	西 原 義 久					
艇指揮	荒 牧 豪 士	N・4	174	68	宗 鳴	像(福岡)
艇 長	山 本 良 史	N・4	165	60	田 嶋	尾(兵庫)
1	加 藤 勇 夫	N・4	168	70	天 王	川(福岡)
2	田 中 正 人	N・4	162	62	県 芦	寺(大阪)
3	野 田 英 夫	E・3	168	65	岐 尼	屋(兵庫)
4	増 田 明 彦	N・3	170	68	嶋 阜	北(兵庫)
5	武 田 安 夫	N・2	178	75	竜 文	北(岐阜)
6	三 坂 正 信	N・3	175	68	明 石	野(兵庫)
7	船 橋 井 俊 一	N・3	180	75	田 川	京(東京)
8	筒 本 一 弘	N・2	171	68	人 崎	石(兵庫)
9	杉 本 国 弘	N・3	175	67	長	川(福岡)
10	加 治 石 大	E・4	173	65		川(福岡)
11	永 石 大 機	N・2	172	70		吉(熊本)
12	中 村 浩 司	N・3	165	63		東(長崎)

水 産 大 学 校

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	橋 本 市 雄					
艇指揮	羽 賀 真 昭	漁業・2	168	59	長 岡	岡(新潟)
艇 長	山 辺 正 志	機関・3	165	60	山 口	口(山口)
1	上 田 直 志	製造・3	165	62	宇 部	部(山口)
2	今 井 正 弘	機関・3	169	63	金 光	園(岡山)
3	多々良 征 弘	機関・3	166	62	鳳 養	基(佐賀)
4	穴 戸 利 彦	漁業・2	170	63	新 潟	(大阪)
5	遠 藤 昭 憲	漁業・3	169	65	舟 工	業(新潟)
6	大 野 昭 憲	漁業・2	175	66	川 富	入(広島)
7	田 中 邦 久	機関・3	171	65	富 岡	本(島根)
8	計 盛 幸 雄	漁業・3	173	66	長 崎	西(徳島)
9	時 津 一 樹	製造・2	168	65	篠 山	東(長崎)
10	山 本 正 夫	漁業・2	175	68	倉 敷	鳴(兵庫)
11	番 公 二 郎	製造・3	165	60	佐 賀	陵(岡山)
12	土 井 捷 三 郎	増殖・3	173	60	都 城	賀(佐賀)
補	○ 村 永 勉	増殖・3	170	65	泉 ケ	丘(宮崎)

出 漕 ク ル ー

東 京 商 船 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	中 島 保 司					
艇指揮	阿 澄 男	航海・4	170	68	新 居 浜 西	高 (愛 媛)
艇長	藤 井 昭 彦	航海・4	160	57	竜 野	高 (兵 庫)
1	野 口 勝 利	機関・3	168	64	熊 谷	高 (埼 玉)
2	菊 池 恭 治	航海・3	172	62	南	高 (神奈川)
3	島 雄 節 彦	航海・3	168	65	新 宿	高 (東 京)
4	鈴 木 憲 一	機関・2	170	68	安 房	高 (千 葉)
5	松 垣 漸 彦	航海・2	170	71	海 南	高 (和歌山)
6	長谷川 雅 彦	航海・4	174	75	春 日 部	高 (埼 玉)
7	横 藤 三 孝	航海・3	169	68	酒 田 東	高 (山 形)
8	伊 藤 芳 明	機関・4	171	70	酒 田	高 (山 形)
9	渡 部 隆 生	機関・4	168	65	八 幡	高 (福 岡)
10	万 治 正 純	航海・3	171	65	倉 吉 東	高 (鳥 取)
11	松 村 三 郎	航海・2	170	64	大 泉	高 (東 京)
12	本 庄 龍 一	航海・3	170	64	目 黒	高 (東 京)
補	古 賀 清 豊	機関・3	170	62	修 猷 館	高 (福 岡)
〃	谷 中 西 悟	機関・2	171	70	世 田 谷	高 (東 京)
〃	町 野 男	機関・2	170	65	高 知 学 芸	高 (高 知)
〃	森 田 文	機関・2	167	65	帯 広	高 (北 海 道)
〃	山 口 雄 二 郎	機関・2	164	58	江 北	高 (東 京)
〃			165	60	済 々 登	高 (熊 本)

東 京 水 産 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	宮 崎 芳 夫					
艇指揮	信 田 臣 一	製造・4	170	62	銚 子	高 (千 葉)
艇長	伊 東 芳 則	漁業・4	162	58	長 生	高 (千 葉)
1	玉 井 誠	漁業・2	173	67	宇 和 島 東	高 (愛 媛)
2	永 岡 嘉 明	製造・3	167	67	栃 木	高 (栃 木)
3	渡 辺 勝 彦	製造・3	170	70	三 国 丘	高 (大 阪)
4	宮 崎 貞 彦	漁業・3	174	65	富 士 森	高 (東 京)
5	増 田 忠 利	製造・3	173	72	松 本 深 志	高 (長 野)
6	風 間 泰 教	漁業・3	172	65	長 野	高 (長 野)
7	水 野 敬 一	増殖・3	172	66	札 幌 南	高 (北 海 道)
8	中 塚 民 夫	増殖・3	170	66	本 庄	高 (埼 玉)
9	中 島 広 馨	製造・2	176	67	鹿 児 島 玉 竜	高 (鹿 児 島)
10	杉 崎 義 信	漁業・3	169	65	足 利	高 (栃 木)
11	太 田 渡 義	製造・3	165	63	江 北 学 院	高 (東 京)
12	石 渡 村 実	増殖・3	172	62	聖 光 野	高 (神奈川)
補	志 佐 々 木 洋	漁業・2	166	60	長 京 都	高 (京 都)
〃	〃	増殖・2	172	61	京 都	高 (京 都)
〃	〃	漁業・4	173	66	気 仙 沼	高 (宮 城)

出 漕 ク ル ー

長 崎 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 (県)
顧問	柴 田 恵 司				
艇指揮	日 野 厚 生	漁業・3	164	54	三 次 高 (広 島)
艇 長	小 林 和 正	漁業・3	157	52	佐 世 保 北 高 (長 崎)
1	吉 村 浩 浩	漁業・3	168	66	長 崎 東 高 (長 崎)
2	田 島 泰 正	漁業・3	170	61	上 野 丘 高 (大 分)
3	猪立山 均	増殖・3	170	62	嘉 穂 村 高 (福 岡)
4	朝 長 嘉 盛	漁業・2	172	63	大 村 高 (長 崎)
5	前 田 俊 勝	漁業・3	175	67	佐 世 保 南 高 (長 崎)
6	後 藤 浩 晴	増殖・3	176	68	舞 鶴 都 高 (大 分)
7	安 藤 秀 雄	漁業・3	178	76	京 小 城 高 (福 岡)
8	松 岡 能 範	漁業・3	179	79	御 東 船 高 (佐 賀)
9	古 閑 範 行	漁業・3	174	73	御 東 船 高 (熊 本)
10	白 石 俊 郎	漁業・3	174	67	東 筑 高 (福 岡)
11	◎ 亀 山 武 行	漁業・3	171	67	舞 鶴 東 高 (大 分)
12	○ 山 崎 和 行	漁業・3	172	60	長 崎 東 高 (長 崎)
補	○ 末 松 実 行	製造・3	168	55	京 都 鶴 高 (福 岡)
〃	白 石 真 一	漁業・2	165	59	舞 鶴 山 高 (大 分)
〃	水 勝 郁 夫	漁業・2	169	61	操 目 高 (岡 山)
〃	白 神 郁 夫	漁業・2	175	67	成 目 高 (岡 山)
〃	合 田 政 治	漁業・2	163	61	杵 築 高 (大 分)
〃	今 林 正 博	漁業・2	163	63	指 宿 高 (鹿 児 島)

日 本 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校 (県)
顧問	添 田 秀 男				
艇指揮	今 村 竜 七	増・4	162	58	焼 津 水 産 高 (静 岡)
艇 長	西 角 守 隆	製・3	175	70	明 大 中 野 高 (東 京)
1	原 博 隆	漁・3	164	63	日 大 一 高 (東 京)
2	高 橋 正 則	製・2	166	50	本 巢 高 校 (岐 阜)
3	深 川 公 行	増・2	166	62	三 重 水 産 高 (三 重)
4	篤 篤 文 彦	漁・3	148	48	日 大 鶴 ヶ 丘 高 (東 京)
5	岡 田 道 一	漁・3	173	60	安 房 水 産 高 (千 葉)
6	蒔 田 道 雄	増・3	175	60	焼 津 水 産 高 (静 岡)
7	小 高 敏 光	製・2	167	70	日 大 桜 ヶ 丘 高 (東 京)
8	◎ 望 月 徳 郎	増・4	172	68	焼 津 水 産 高 (静 岡)
9	佐 藤 憲 玄	漁・2	167	65	高 田 高 (大 分)
10	堀 内 正 一	獣・2	169	65	奈 良 高 (奈 良)
11	橋 迫 覚 一	漁・3	164	62	日 大 鶴 ヶ 丘 高 (東 京)
12	○ 今 井 康 一	増・4	172	60	成 日 大 城 高 (東 京)
補	矢 橋 健 一	漁・2	167	57	日 大 大 高 (東 京)
〃	藤 谷 政 一	漁・2	170	68	日 大 桜 ヶ 丘 高 (東 京)
〃	加 藤 修	農化・2	184	75	夷 隅 高 (千 葉)

出 漕 ク ル ー

防 衛 大 学 校

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	寺 島 広 康	海.航空工4	167	60	膳 所	高 (滋 賀)
艇指揮	◎ 沢 棚 橋 正 樹	海.基礎I 3	170	62	岐 阜	高 (岐 阜)
艇長	岡 田 強 強	陸 . 2	165	61	城 南	高 (徳 島)
1	福 崎 幸 則	海.基礎I 4	166	65	玉 竜	高 (鹿 児 島)
2	福 谷 薫 夫	海.基礎I 4	169	61	三 次	高 (広 島)
3	中 島 隆 夫	陸.電 4	168	66	高 崎	高 (群 馬)
4	中 川 正 光	海.基礎I 3	171	65	上 津 中 部	高 (福 岡)
5	阿 部 村 洋 継	海.基礎I 3	169	65	唐 津 東	高 (佐 賀)
6	川 村 旭 近	空.機 3	168	66	延 岡	高 (宮 崎)
7	牧 本 信 近	海.応化 3	177	65	熊 本	高 (熊 本)
8	岩 谷 文 隆	海 . 2	171	62	上 五 島	高 (長 崎)
9	蔵 本 正 夫	海.基礎I 3	171	66	九 亀	高 (香 川)
10	大 田 豊 治	海.応物 4	169	64	呉 三 津 田	高 (広 島)
11	藤 沢 勝 治	陸.応物 4	172	61	竜 野	高 (兵 庫)
12	甲 斐 敏 春	海.応化 3	166	61	富 島	高 (宮 崎)
補	重 佐 水 原 義 利	海 . 2	172	60	伊 集 院	高 (鹿 児 島)
〃	佐 原 利 幸	空 . 2	173	67	安 積	高 (福 島)
〃	神 原 東 一 郎	陸 . 2	170	68	銚 子	高 (千 葉)
〃	芥 藤 悟 夫	. 1	168	62	秋 田	高 (秋 田)
〃	○ 新 海 博 夫	海.基礎I 4	172	61	莊 崎	高 (山 梨)

三 重 県 立 大 学

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	細 川 鉄 雄	増 . 3	169	57	浜 松 北	高 (静 岡)
艇指揮	二 川 村 保 宏	. 2	173	65	文 京	高 (東 京)
艇長	梅 村 庄 三 夫	増 . 3	168	57	四 日 市	高 (三 重)
1	近 藤 不 二 夫	漁 . 3	172	65	中 村 東	高 (愛 知)
2	植 田 直 雅 行	. 2	161	61	豊 橋	高 (愛 知)
3	大 堀 藤 直	漁 . 4	165	71	山 本	高 (大 阪)
4	○ 堀 口 栄 夫	増 . 3	166	70	雪 谷	高 (東 京)
5	飯 田 憲 夫	. 2	176	68	津 本	高 (三 重)
6	野 田 明 史	漁 . 3	176	73	伊 勢	高 (三 重)
7	◎ 山 中 博 昌	増 . 3	176	73	熊 本	高 (熊 本)
8	村 田 誠 博	. 2	174	72	布 施	高 (大 阪)
9	永 田 昌 健	. 2	172	71	向 陽	高 (愛 知)
10	大 三 嶋 基	. 2	167	59	住 吉	高 (愛 知)
11	加 藤 大 輔	. 2	161	57	刈 谷	高 (愛 知)
12	杉 永 厚	増 . 3	164	58	昭 和	高 (愛 知)
補		増 . 3	175	56	上 野	高 (三 重)
〃						

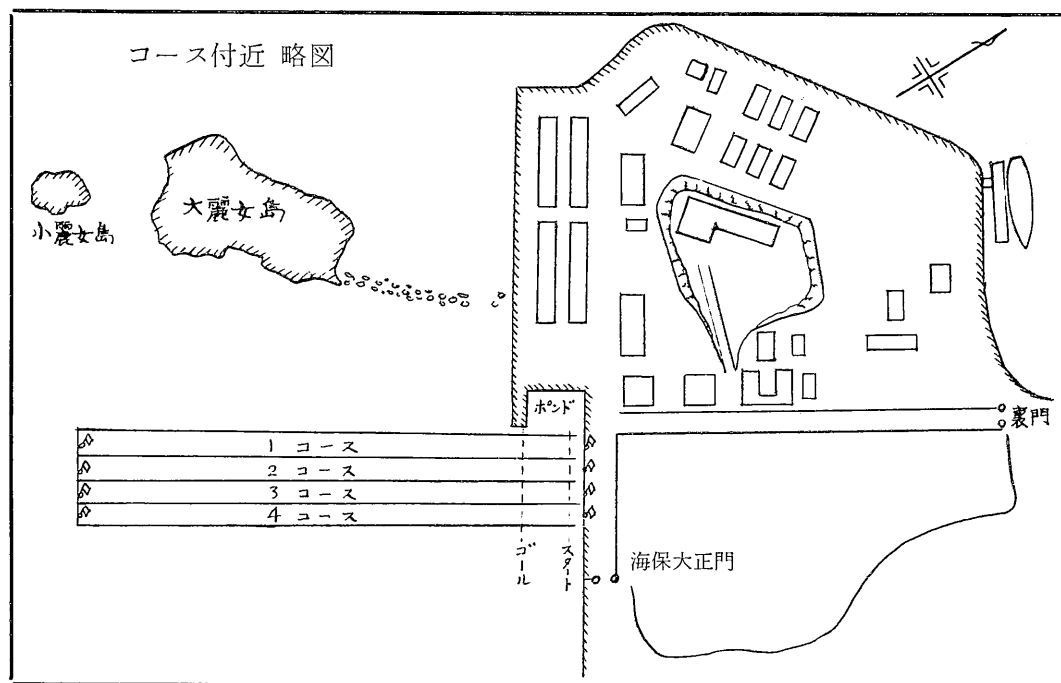
出 漕 ク ル ー

海 上 保 安 大 学 校

	氏 名	科・学年	身長	体重	出 身 高 校	(県)
顧問	八重樫 勉					
艇指揮	◎ 佐藤 義人	N . 4	164	58	盤 城	高 (福 島)
艇長	村上 克久	E . 4	164	63	山 口	高 (山 口)
1	岡 哲 磨	. 2	165	62	中 津 南	高 (大 分)
2	五十嵐 一馬	. 2	168	64	国 府 台	高 (千 葉)
3	岩瀬 操	. 2	164	60	足 立	高 (東 京)
4	竹本 憲二	N . 3	168	60	観 音	高 (広 島)
5	北風 紘	E . 3	172	66	御 影	高 (兵 庫)
6	亀井 豊	N . 3	178	72	中 村	高 (愛 知)
7	高橋 勝	N . 3	178	72	木 更 津	高 (千 葉)
8	浜本 武男	N . 3	175	72	大 崎	高 (広 島)
9	橋本 良明	. 2	171	64	福 野	高 (富 山)
10	山名 利美	. 2	170	67	府 中	高 (広 島)
11	古屋 克己	. 2	165	60	立 川	高 (東 京)
12	福光 誠	. 2	165	58	福 岡	高 (福 岡)
補	○ 高坂 一憲	E . 3	168	68	明 正	高 (東 京)

成 績 一 覧

第1回	① 東京水産大学	② 東京商船大学	③ 神戸商船大学 (東京)
第2回	① 東京水産大学	② 水産大学校	③ 東京商船大学 (神戸)
第3回	① 水産大学校	② 海上保安大学校	③ 東京水産大学 (呉)
第4回	① 神戸商船大学	② 水産大学校	③ 海上保安大学校 (横須賀)
第5回	① 東京水産大学	② 水産大学校	③ 三重県立大学 (神戸)
第6回	① 東京商船大学	② 防衛大学校	③ 水産大学校 (館山)
第7回	① 東京水産大学	② 海上保安大学校	③ 神戸商船大学 (呉)
第8回	① 神戸商船大学	② 海上保安大学校	③ 東京商船大学 (館山)
第9回	① 神戸商船大学	② 防衛大学校	③ 水産大学校 (神戸)
第10回	① 海上保安大学校	② 防衛大学校	③ 三重県立大学 (横須賀)
第11回	①	②	③ (呉)



レースの手引

本大会に使用される艇は長さ9米12人漕のカッターである。救命艇として使用されるものであるが一般のそれは艀艇同型であるのに対し、艀を切落して外観は普通の舟艇と変わらない。外板鉛張の木製でオール12本（各々長さ約4米40握りの直径8.2種、重さ10乃至15疋である）マスト、セール等の艀装品を備え帆走も可能である。漕手はクルーと呼ばれ艇尾より船首に向つて艀右側の者が1番、同じく左側の者が2番、以下交互に3、4～11、12番と続き、1、2番をBowmen、11、12番をStrokemen（整調）と称して櫓漕のビッチを加減する任務を持つ。艇尾で舵を握るのが艇長で、指揮号令を行つているのが艇指揮である。艇指揮は艇の全ての指揮を行い船長に相当する。

レース距離は折返し2000米の直線コースで行う。各艇の艇首が一直線に並んだ時、号砲の信号を以つてスタートし、スタートラインより1000米の所に設置された各コース毎の回頭旗を、艇をこれに接触させずに左回り（反時計回り）に回頭して帰ってくる。即ちスタートラインがそのままゴールラインで、ゴールは艇首がゴールラインに達した時とする。予選は各グループ4チームづつで分けて行う。各グループの優勝チーム及び2位となつたチームが敗者復活戦を行つて1位となつた計4チームによつて最後に優勝戦が行われるのである。レースはいずれも時間的ずれによる海況の変化の影響等のために、タイムレースでなく着順位である。ビッチ（1分間に漕ぐ回数）は大体30前後であるが各チームとも漕法の研究を重ねているので必ずしも一定ではなくそれぞれ特色のある漕法によるビッチを持つている。レース所要時間は10分余である。しかし、救命艇という性質上、いかなる荒海でもレースは行われ、その様な場合には30分にも及ぶ。カッターレースは10分余の間一瞬といえども息を抜くことを許されず、しかもクルー全員の呼吸が完全に一致しなければならない。レースの見所は、ビッチをいくらに定めるか、スタートダッシュ、回頭ラストスパートの巧拙、風浪、海潮流の対策、利用の巧拙等たゆまぬ練習、シーマンシップを完全に身につけた者が初めて克服できる実技を兼ねた、最も豪快な海のスポーツである。

審 判 規 則

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 使用艇、オール及びコースはレースの都度抽選により決定する。 2 スタート <ol style="list-style-type: none"> 1 各艇は指定の時刻、コース順に従い、スタートラインに整列する。 2 5分前をマイクにより通達スタートブイにつく。ブイにつき用意が完了したら艇長は陸上の審判員に手を挙げて合図する 3 スタート用意：号笛短声連続、手旗2原画、号笛長一声手旗頭上より一回転する 4 スタート：頭上手の旗を垂直に振下すと同時に号砲を打つ。 3 審判長、審判員がスタートを不完全と認めたときは直ちにレースを中止せしめ、スタートラインに呼び返す。
諸信号、審判艇コース横断。 4 スタートにおける号令前の飛び出し及び艇の事故によるスタートの遅速等は2回で失格である。 5 回頭は左回頭とする。回頭は指定の回頭旗を回頭するものとし他の回頭旗を回頭した場合、及び回頭旗に艇またはオール | <ol style="list-style-type: none"> の一部でも接触した場合は失格である。 6 ゴール：艇首が規定のゴールラインに入つた順序をもつて順位とし、順序は審判員が判定する。 7 同着の場合は追込艇の勝とする。 8 ゴールイン時のスタートブイタッチは失格としない。 9 各艇は自己のコースを航行しもしこれを誤つて他の艇に接触その他不正行為があつたと審判員の認めたときは失格とする 10 レース中のコースにおける障害、自艇の故障等は他艇の不正な接触を除く他各艇自らこれを忍ぶべきものとする。しかし審判長の判断によりこの限りでないときもある。 11 レースに関する異議申立等はすみやかに艇指揮がこれを行い、審判長が裁決する 12 オールは予備2本を積み自由に使用して良い。 13 補欠は2名以内自由に交替できる。 14 オールは流したままゴールインしてよい |
|--|--|

M E M O

天候

風向

風速

波浪

時 刻	種 目	コ ー ス	校 名	艇	着 順	タ イ ム
09.00		開	会		式	
10.00	予選 第1レース	1	海保大	6	1	11-19.0
		2	東船大	4	2	11-34.9
		3	日大	5	3	12-29.2
10.40	予選 第2レース	1	鹿大	5	2	11-43.0
		2	海技大	1	4	13-01.2
		3	三水大	6	1	11-42.2
		4	水産大	4	3	11-44.8
11.20	予選 第3レース	1	長水大	4	3	11-48.9
		2	防大	1	1	11-29.9
		3	神船大	5	2	11-41.2
		4	東水大	6	4	12-09.3
11.45~13.00		昼	食	・	休	憩
13.30	敗者 復活レース	1	神船大	4	2	11-44.8
		2	鹿大	5	3	11-46.1
		3	水産大	1	4	11-47.5
		4	東船大	6	1	11-44.4
14.10	順位 決定レース	1	東水大	6	2	11-57.8
		2	長水大	5	1	11-57.7
		3	海技大	4	4	12-34.0
		4	日本大	1	3	12-25.4
15.00	決 勝 レース	1	三宅大	4	3	11-47.8
		2	海保大	1	2	11-33.5
		3	東船大	6	4	11-54.4
		4	防大	5	1	11-31.3
15.45		閉	会		式	